

I. 平成26年度の概要

1. 事業について

公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団は、「生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を奨励することにより、この分野の学術の振興を図り、もって、人類の健康と福祉の増進に寄与する」ことを目的として、平成22年10月1日に公益財団法人へ移行し、定款に定める事業を開始した。この事業報告及び決算報告書は、平成26年4月1日から平成27年3月31日までの期間についての当法人の事業活動を取りまとめたものである。

平成26年度は、第一三共株式会社等からの寄附金収入、基本財産の運用収入並びに前年度からの繰越金を活用し、以下のとおり、公益目的事業を助成事業（公1）並びに研究業績褒賞事業（公2）に区分して実施した。

助成事業 (公1)	1. 研究助成 2. 海外共同研究支援助成 3. 研究会・シンポジウム開催助成 4. 海外留学奨学研究助成
研究業績褒賞事業 (公2)	1. 研究業績褒賞事業（第12回高峰記念第一三共賞） 2. 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（第31回高峰カンファレンス）

2. その他について

(1) 指定寄附金収入

- 1) 第一三共株式会社より、平成26年4月18日、指定寄附金として、1億5千5百万円を受領した。
- 2) 鈴木良彦氏より、平成26年6月19日、助成事業に対し、指定寄附金として、10万円を受領した。

(2) 主要事業活動報告

- 1) 平成26年4月18日の第9回選考委員会において、平成26年度海外共同研究支援助成及び平成26年度研究会・シンポジウム開催助成並びに第12回高峰記念第一三共賞第一次候補者の選考を行った。
- 2) 平成26年5月21日の第12回高峰記念第一三共賞審査委員会において、同賞の最終候補者の審査を行った。
- 3) 平成26年6月9日の第16回理事会において、平成25年度（平成25年4月1日～平成26年3月31日）の事業報告及び決算報告書、平成26年度海外共同研究支援助成者の決定、平成26年度研究会・シンポジウム開催助成者の決定、第12回高峰記念第一三共賞受賞者の決定、任期満了に伴う理事・監事候補者推薦、任期満了に伴う選考委員改選、顧問選任、「評議員会の日時及び場所並びに目的である

事項」の各件について審議され、承認された。

- 4) 平成26年6月23日の第7回評議員会において、平成25年度（平成25年4月1日～平成26年3月31日）決算報告書について審議され、承認された。
- 5) 平成26年6月24日に内閣府に平成25年度事業報告等の提出を行った。
- 6) 平成26年8月22日に内閣府による立入検査が実施された。
- 7) 平成26年10月29日の第10回選考委員会において、平成26年度研究助成及び平成27年度海外留学奨学研究助成候補者の選考を行った。内、平成27年度海外留学奨学研究助成については、11月26日に内定者（5名）の面接を実施した。
- 8) 平成26年12月10日の第18回理事会において、平成26年度研究助成対象者決定、平成27年度海外留学奨学研究助成対象者決定、平成27年度事業推薦・応募要領、海外留学奨学研究助成金額変更、助成（褒賞）候補者推薦依頼先の各件について審議され、承認された。
- 9) 平成27年2月13日の第19回理事会において、平成27年度事業計画及び収支予算について審議され、承認された。
- 10) 平成27年2月13日、第12回高峰記念第一三共賞の贈呈式が実施された。
- 11) 平成27年3月2日に平成27年度事業計画等を内閣府に提出した。
- 12) 平成27年3月4日に第31回高峰カンファレンスを開催した。

(3) 人事関係

- 1) 平成26年6月23日の第7回評議員会において、理事、監事の任期満了に伴う改選が行われ、金澤一郎理事、笹月健彦理事、鈴木良彦理事、長野哲雄理事、溝口秀昭理事、森謙治理事の6名が退任、福山透理事、松本俊夫理事、山本博理事の3名が新たに就任し、現在数が18名から15名となった。監事2名は現行とおり再任された。
- 2) 平成26年7月1日に第17回理事会を書面決議にて実施し、理事長（代表理事）及び常務理事（業務執行理事）の選定について、承認を得た。中山譲治理事長及び金子次男常務理事が選定された。
- 3) 平成26年6月23日の第7回評議員会において、評議員の任期満了に伴う改選が行われ、高久史磨評議員、黒川清評議員、豊島久真男評議員、別府輝彦評議員、萬年徹評議員の5名が退任、黒岩常祥評議員、笹月健彦評議員、廣川信隆評議員、森謙治評議員、矢崎義雄評議員の5名が新たに就任し、現在数は10名を維持した。
- 4) 平成26年7月16日、役員及び評議員改選並びに理事長変更に係わる変更届を内閣府に提出した。
- 5) 平成26年6月9日の第16回理事会において、選考委員の任期満了に伴う改選が行われ、福山透委員、松本俊夫委員、湊長博委員、山本博委員の4名が退任、6名が新たに就任し、現在数が、18名から20名となった。

- 6) 同理事会において、長年当法人にて貢献された、高久史麿先生、豊島久眞男先生、別府輝彦先生が顧問に選任された。
- 7) 平成26年9月1日に、金子次男常務理事が役員兼任職員として、当法人と契約職員契約を締結した。

Ⅱ. 平成26年度事業報告

1. 事業の総括

	事業	金額	備考
助成事業 (公1)	研究助成 (定款第4条-1)	60,000千円	平成25年度 @100万円×30件 平成26年度 @100万円×30件
	海外共同研究支援助成 (定款第4条-2)	3,500千円	@50万円×7件
	研究会・シンポジウム開催助成 (定款第4条-3)	1,000千円	@50万円×2件
	海外留学奨学研究助成 (定款第4条-4)	22,500千円	平成25年度 @300万円×2件 @200万円×1件 平成26年度 @300万円×4件 @250万円×1件
	その他助成事業費	25,201千円	
	助成事業計	112,201千円	
研究業績褒賞事業 (公2)	研究業績褒賞費 (定款第4条-5)	11,007千円	第12回高峰記念第一三共賞
	シンポジウム開催 (定款第4条-5)	5,926千円	第31回高峰カンファレンス
	その他研究業績褒賞事業費	9,319千円	
	研究業績褒賞事業計	26,252千円	
合計		138,453千円	

2. 助成事業 (公1)

(1) 平成26年度研究助成 (定款第4条-1)

- 1) 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に従事する研究者に対して、研究助成を行うことにより、学術及び科学技術の振興を図ることを目的としている。
- 2) 募集対象：日本国内在住の生命科学分野を専攻し、優秀、かつ最先端の研究をする50歳未満の研究者。
- 3) 募集規模
 - ①1件当たり200万円 (助成期間は、2年間)
 - ②採択数：30件
- 4) 募集方法
 - ①理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長・研究所長、研究機関長並びに当法人の理事・評議員・顧問、過去の褒賞受賞者に対して推薦を依頼した。
 - ②当法人ホームページにて、応募要領を掲載し、募集した。

5) 応募方法

- ①理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長・研究所長、研究機関長並びに当法人の理事・評議員・顧問、過去の褒賞受賞者を推薦者とし、応募要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦書を送付した。
- ②応募者は、上述の推薦者に推薦を依頼した。
- ③推薦者は応募者の中から、応募者選定ガイドラインに基づき、応募者を公正かつ適正に選定した。
- ④応募者は、推薦書を取得後、所定の申請書、主要論文を当法人に送付した。
- ⑤応募受付期間：平成26年4月1日～5月31日
- ⑥平成26年度の応募数：181件

- 6) 選考方法：理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第10回選考委員会による選考結果をもとに、第18回理事会にて30件の助成対象者を決定した。(附属明細書資料 - 1：平成26年度当該助成採択者参照)

7) 研究成果の公表

- ①助成者は、助成期間終了後、成果論文を当法人に提出する。
- ②助成者は、助成期間終了後、収支決算書を当法人に提出する。
- ③助成者の成果論文を基に、研究報告集を作成し、当法人関係者、助成者並びに全国の大学等研究機関の図書館に寄贈する。尚、本年度は、平成24年度研究助成並びに海外留学奨学研究助成等の成果論文について、当該報告集Vol.30として、平成26年10月10日に発刊し、300箇所寄贈した。
- ④助成者の氏名、研究テーマを当法人ホームページにて掲載した。

(2) 平成26年度海外共同研究支援助成（定款第4条-2）

- 1) 概要：海外の研究機関と共同研究を実施している研究者に助成を行う。
- 2) 募集対象：海外の学者との共同研究を行っている、日本国内在住の生命科学分野を専攻する研究者で、海外の研究者との共同研究を目的とした、海外渡航或いは海外の研究者を招聘する者。
- 3) 募集規模
 - ①1件当たり50万円以内
 - ②採択数：研究会・シンポジウム開催助成と併せて10件以内
- 4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一
- 5) 応募方法
 - ①応募方法は、「研究助成」と同一
 - ②応募受付期間：平成26年1月15日～2月28日
- 6) 平成26年度の応募数：12件

- 7) 選考方法：理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第9回選考委員会による選考結果をもとに、第16回理事会にて7件の助成対象者を決定した。(附属明細書資料-2：平成26年度当該助成採択者参照)
- 8) 成果：実施終了後、実施報告書並びに収支報告書を入手した。

(3) 平成26年度研究会・シンポジウム開催助成（定款第4条-3）

- 1) 概要：萌芽的な研究をテーマとした、国際シンポジウムを対象とする助成である。
- 2) 募集対象：生命科学分野に関する国際シンポジウムの中で、過去に海外で開催され、助成対象期間に日本にて開催される国際シンポジウムの開催助成
- 3) 募集規模
 - ①1件当たり50万円以内
 - ②採択数：海外共同研究支援助成と併せて10件以内
- 4) 募集方法：当法人ホームページにて、応募要領を掲載し、募集した。
- 5) 応募方法
 - ①応募者は、所定の申請書必要事項を記入後、当法人に送付した。
 - ②応募受付期間：平成26年1月15日～2月28日
 - ③平成26年度の応募数：4件
- 6) 選考方法：理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第9回選考委員会による選考結果をもとに、第16回理事会にて2件の助成対象者を決定した。(附属明細書資料-3：平成26年度当該助成採択者参照)
- ④成果：実施終了後、実施報告書等並びに収支報告書を入手した。

(4) 平成27年度海外留学奨学研究助成（定款第4条-4）

- 1) 概要：海外の研究機関にて一定の期間研究に専念する優秀な若手研究者に奨学研究助成金を交付する。
- 2) 募集対象
 - ①原則、日本国籍を有し、生命科学分野を専攻する研究者で、年齢が35歳以下である者。尚、医師免許取得者は37歳以下とする。
 - ②海外の大学等研究機関において、1年間以上研究に従事することを計画している者。
- 3) 募集規模
 - ①1件当たり600万円（助成期間は、2年間）
 - ②採択数：5件以内
- 4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一

5) 応募方法

- ①応募方法は、「研究助成」と同一
- ②応募受付期間：平成26年4月1日～5月31日
- ③平成27年度の応募数：51件

6) 選考方法

- ①理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第10回選考委員会による選考結果をもとに、内定候補者を決定。その後、内定候補者の辞退があったため、選考委員会にて承認された手続きに則り順次繰り上げ、上位者5名を内定候補者とした。
- ②11月26日に、辻省次選考委員長、堅田利明選考委員を面接官として、内定候補者の面接を実施し、最終内定者（5名）を決定した。
- ③第18回理事会にて5名の助成対象者を決定した。（附属明細書資料-4：平成27年度当該助成採択者参照）

7) 研究成果の公表：「研究助成」と同一。

(5) 財団創立30周年記念助成事業

1) 若手研究者海外短期留学奨学研究助成の成果報告会

- ①概要：当事業は、平成25年度が財団創立30周年にあたり、それを記念して実施した助成事業であり、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を専攻する若手研究者の流動性向上、キャリア形成を図ることを目的とした。尚、平成25年度の単年度完了の事業である。
- ②募集対象
 - ア) 生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究分野の研究者を目指す、日本国内在住の大学院生。
 - イ) 3ヶ月以内の海外留学を計画している者。
- ③採択結果：平成25年度に6件採択した。
- ④研究成果の公表
 - ア) 実施報告書並びに収支報告書を平成25年度に入手した。
 - イ) 平成26年4月18日に成果報告会を開催。6名の採択者全員により、短期留学の成果について、報告が行われた後、同会に出席した面接審査委員、選考委員18名による指導がなされた。

3. 研究業績褒賞事業（公2）

(1) 研究業績褒賞事業（定款第4条-5）

- 1) 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並

びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される研究者に対する褒賞を実施する。

2) 褒賞名：第12回高峰記念第一三共賞

3) 褒賞対象者：生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究において、その進歩・発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される日本国内在住の研究者。

4) 推薦方法

①理事会により選定した全国の生命科学分野の大学院研究科長・研究所長等、研究機関長、又は、当法人の理事・評議員・顧問・選考委員、過去の褒賞受賞者に推薦を依頼した（但し、高峰記念第一三共賞審査委員は推薦者より除く）。

②推薦期間：平成26年1月15日～2月28日

③推薦件数：本年度は、17件より16名の推薦があった。

5) 選考方法

①第一次選考：第9回選考委員会により応募候補者の選定を行い、3名の候補者が第二次候補者となった。

②第二次応募候補者に対し応募の意思の確認および応募申請の要請を行った。

6) 最終選考

①第12回高峰記念第一三共賞審査委員会は、応募申請書及び選考委員会結果を参考に、審査基準に基づき審議し、最終候補者を選定した。

②第16回理事会において、褒賞受賞者を決定した。

③受賞者名、受賞研究テーマ、受賞理由を当法人ホームページにて掲載するとともに、当法人出捐会社の第一三共株式会社よりプレスリリースを実施した。

7) 受賞者及び受賞研究テーマ

①受賞者：山本 一彦博士（東京大学大学院医学系研究科教授）

受賞研究テーマ：「ヒトの自己免疫疾患における抗原特異的免疫応答に関する研究」

8) 褒賞の方法および贈呈

①賞状、賞牌並びに副賞（1,000万円）を贈呈した。

②贈呈式を実施し、表彰した（日時：平成27年2月13日、場所：如水会館）。出席者数：66名。

③贈呈式において、受賞者に講演を依頼。当日、受賞者の略歴・業績集を贈呈式参加者に配布した。

(2) 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（定款第4条-5）

1) 概要：高峰記念第一三共賞受賞者の業績を記念したシンポジウムを開催し、学

術交流の場を提供することにより、研究の振興並びに若手研究者の養成を図る。

2) 名称：第31回高峰カンファレンス

3) 開催の内容

①テーマ：「ヒト免疫学の展望」

②開催時期：平成27年3月4日

③開催場所：如水会館

④プログラム：受賞者による記念講演及び関連講演

ア) 記念講演

座長：高久史麿先生（日本医学会長）

演者：山本 一彦先生（東京大学大学院医学系研究科教授）

演題：ヒト免疫学と自己免疫疾患研究

イ) 講演

座長：山本 一彦先生（東京大学大学院医学系研究科教授）

演者1：河上 裕先生（慶應義塾大学医学部 先端医科学研究所 所長）

演題：ヒト腫瘍免疫学の進歩と新たな時代を迎えたがん免疫療法

演者2：山村 隆先生（独）国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 免疫研究部 部長）

演題：多発性硬化症・視神経脊髄炎の免疫病態と治療

演者3：坂口志文先生（大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 教授）

演題：ヒト制御性T細胞による自己免疫、癌免疫の制御

⑤応募方法及び出席者数：募集期間（平成27年1月15日～2月13日）を設定し、高峰カンファレンステーマに関連する研究を行う大学大学院、研究機関等にポスター配布、当法人ホームページより参加者を募った。その結果、93名の参加者を得た。

⑥開催終了後の成果物：実施内容を当法人ホームページへ掲載した。

4. その他

(1) 助成Web登録システムの稼働

申請者の申請の簡便化及び当法人内の助成業務の効率化を図るべく、Web上にて申請、選考及び当該管理を行うシステムを構築し、平成26年度各種助成より正式稼働した。本年度の助成事業に係わる申請・選考・結果公示過程終了後に、各過程において、発生した不具合を改善すべく、システムの改良を実施した。尚、高峰カンファレンスの参加申込についてもシステム化した。

以 上

5. 附属明細書

[資料-1]

平成25年度研究助成採択者

30件（交付金：1件100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名	研究課題
浅野 謙一	東京薬科大学生命科学部・准教授	骨髄CD169陽性マクロファージによる造血系幹細胞の分化制御
池ノ内 順一	九州大学大学院理学研究院生物科学部門代謝生理学研究室・准教授	生体膜脂質の多様性の意義の解明
江口 潤	岡山大学病院腎臓・糖尿病・内分泌内科・助教	脂肪組織と骨格筋を制御する新規膜蛋白の同定とメタボリック症候群における病態生理学的意義
榎本 和生	東京大学大学院理学系研究科・教授	不要神経回路の選択的除去メカニズムに関する遺伝学的研究
沖米田 司	関西学院大学理工学部生命科学科生命医化学専攻・准教授	閉塞性肺疾患関連膜タンパク質を標的とした HTS アッセイの構築
長船 健二	京都大学iPS細胞研究所増殖分化機構研究部門・准教授	貧血に対する再生医療開発を目指したヒトiPS細胞からの腎エリスロポエチン産生細胞作製
勝野 雅央	名古屋大学大学院医学系研究科（神経内科学）・准教授	運動ニューロン疾患に対する分子標的治療法の開発
嘉糠 洋陸	東京慈恵会医科大学医学部・教授	病原体節足動物の腸管バリアシステムの分子基盤
喜田 聡	東京農業大学バイオサイエンス学科・教授	記憶想起に対する時計遺伝子BMAL1の役割の解析
久保田 義顕	慶應義塾大学医学部機能形態学研究室・准教授	腫瘍血管レドックス・シグナルを標的とした新規がん分子標的療法の開発
見学 美根子	京都大学物質-細胞統合システム拠点・教授	哺乳類脳のニューロン樹状突起形成と維持におけるミトコンドリア機能の解明
河野 肇	帝京大学医学部内科学講座・准教授	HDLの抗動脈硬化作用における自然炎症の関与
眞田 佳門	東京大学大学院理学系研究科遺伝子実験施設・准教授	ダウン症モデルマウスにおける神経発生異常の分子基盤の解析
塩崎 一裕	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科・教授	キナーゼ結合タンパク質Sin1によるシグナル伝達ネットワーク
竹本 龍也	徳島大学藤井節郎記念医科学センター・初期発生研究分野・特任助教	胚の細胞系譜の分岐に従った骨格筋・脊椎骨産出の細胞分化デザイン
谷内 一郎	理化学研究所免疫転写制御研究グループ・グループディレクター	長鎖非コードRNAによるRUNX転写因子調節を介した喘息発症抑制機構の解明
中川 一路	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・教授	Atg5依存・非依存的な細菌感染特異的オートファジー誘導機構の解析
西村 智	東京大学大学院医学系研究科循環器内科・特任准教授	肥満脂肪組織における局所免疫賦活化機構を標的とした代謝疾患治療法の開発
長谷 耕二	東京大学医科学研究所・特任教授	腸管M細胞における宿主-微生物間相互作用の解析

氏名	所属機関・職名	研究課題
馬場 義裕	大阪大学免疫学フロンティア研究センター医科学研究所・特任准教授	自己免疫性炎症を抑制するB細胞の作用機序の解明
濱崎 万穂	大阪大学大学院医学系研究科遺伝医学講座遺伝学教室・助教	最新光顕・電顕相関法を用いたオートファゴソーム膜形成過程初期の解明
久本 直毅	名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻・准教授	軸索再生誘導因子SVH-1の機能解明
等 誠司	滋賀医科大学医学部医学科生理学講座統合臓器生理学部門・教授	カンクイザルを用いた気分安定薬の薬理作用と作用機序の解析
星野 克明	香川大学医学部病理病態・生体防御医学講座免疫学・教授	形質細胞様樹状細胞における転写因子Spi-Bを介するインターフェロン産生誘導メカニズムの解明
堀江 恭二	奈良県立医科大学生理学第二講座・教授	変異ES細胞ライブラリーの分化誘導による細胞系譜決定因子の探索
三嶋 雄一郎	東京大学分子細胞生物学研究所・助教	受精を引き金としてmRNAの安定性が変化するしくみの解明
水島 昇	東京大学大学院医学系研究科(分子生物学分野)・教授	オートファジーの選択的基質認識に関する研究
光永 真人	東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科・助教	がん幹細胞を標的とした新規分子標的的特異的光線化学療法の開発
本橋 ほづみ	東北大学加齢医学研究所遺伝子発現制御分野・教授	IDH1変異体を利用したがん細胞選択的Nrf2機能抑制の試み
綿田 裕孝	順天堂大学大学院医学研究科代謝内分泌内科学・教授	糖尿病における膵β細胞障害機構

平成26年度研究助成採択者

30件（交付金：1件100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名	研究課題
新井文用	九州大学大学院医学研究院应用幹細胞医科学部門幹細胞再生修復医学分野・教授	老化造血幹細胞の細胞分裂制御におけるShelterin分子の機能解析と体外増幅に向けた応用
石井直人	東北大学大学院医学系研究科免疫学分野・教授	T細胞共刺激分子OX40を介する細胞内シグナル伝達機構の解明
伊東史子	東京薬科大学生命科学部心血管医学研究室・准教授	リンパ浮腫や腫瘍転移抑制を目指したリンパ管新生の分子メカニズムの解明と応用
大木理恵子	国立がん研究センター研究所難治がん研究分野・主任研究員（グループリーダー）	新規がん抑制遺伝子 <i>PHLDA3</i> によるAkt経路の制御機構解明と治療への展開
大倉永也	大阪大学医学系研究科最先端医療イノベーションセンター基礎腫瘍免疫学共同研究講座・特任教授	エピゲノムに基づく制御性T細胞の機能解明と臨床応用
大洞将嗣	九州大学生体防御医学研究所感染ネットワーク研究センター・分子免疫学分野・准教授	自己免疫性炎症の新規制御機構の解明
鏡雅代	国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部・室長	原因不明SGA性低身長に対する網羅的分子遺伝学的検討
五島剛太	名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻・教授	小頭症原因遺伝子ASPMの機能解析
小谷友也	北海道大学大学院理学研究院生物科学分野生殖発生生物学講座・准教授	成熟卵子形成の分子細胞生物学的研究
坂田（柳元） 麻実子	筑波大学医学医療系血液内科・准教授	T細胞リンパ腫の治療モデルの作製
匂坂敏朗	神戸大学大学院医学研究科生理学・細胞生物学講座膜動態学分野・教授	新しい膜挿入システムと膜挿入病の解明
鈴木教郎	東北大学大学院医学系研究科酸素医学コアセンター新医学領域創生分野・講師	造血因子エリスロポエチンの産生機序から理解する慢性腎臓病の分子病態
田中元雅	理化学研究所脳科学総合研究センタータンパク質構造疾患研究チーム・チームリーダー	タンパク質の凝集化に着目した精神障害発現機構の解明
田中芳彦	福岡歯科大学機能生物化学講座感染生物学分野・教授	病原微生物に特異的な免疫応答による口腔真菌感染症の予防法と治療法の開発
土居雅夫	京都大学大学院薬学研究科医薬創成情報科学専攻システムバイオロジー分野・准教授	オーファン受容体とそのリガンド同定による脳内中枢時計神経ネットワーク機構の解明
富澤一仁	熊本大学大学院生命科学研究部・分子生理学分野・教授	X染色体連鎖性精神遅滞の分子機構の解明
富田泰輔	東京大学大学院薬学系研究科臨床薬学教室・教授	細胞内小胞輸送攪乱によるアルツハイマー病発症機構の解明

氏名	所属機関・職名	研究課題
朝長啓造	京都大学ウイルス研究所ヒトがんウイルス研究分野・教授	インフルエンザウイルス感染におけるO型糖鎖修飾酵素の機能解明と治療への応用
中川秀彦	名古屋市立大学大学院薬学研究科薬化学分野・教授	NO関連情報伝達分子の次世代型光線力学療法剤の開発研究
中島友紀	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学・独立准教授	破骨細胞分化・成熟を司る制御遺伝子の同定と機能解析
羽鳥恵	慶應義塾大学医学部眼科学教室時間生物学研究室・特任准教授	哺乳類の網膜神経節細胞内における光受容情報伝達メカニズムの解明
原田浩	京都大学医学部附属病院放射線治療科・特定准教授	腫瘍内低酸素がん細胞の動的平衡の時空間解析と化学放射線療法最適化への展開
深田正紀	自然科学研究機構生理学研究所細胞器研究系生体膜研究部門・教授	パルミトイル化サイクルによるRasおよびG蛋白の動態制御機構の解明
星野幹雄	国立精神・神経医療研究センター神経研究所病態生化学研究部・部長	自閉症関連遺伝子の神経回路形成における機能と限局性皮質異形成症の形成機序の解明
南野徹	新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科・教授	血管ニッチ老化による加齢関連疾患発症メカニズムの解明
村木則文	自然科学研究機構分子科学研究所生命・錯体分子科学研究領域・特任助教	マラリア原虫のヘム無毒化機構を標的とする創薬に向けた構造基盤の解明
山口英樹	国立がん研究センター研究所難治進行がん研究分野・ユニット長	多色蛍光イメージングによるスキルス胃癌腹膜播種機構の解析
山下政克	愛媛大学大学院医学系研究科免疫学・感染防御学講座・教授	グルタミン代謝調節を介したヘルパーT細胞サブセット分化とアレルギー性炎症の制御
山田雅巳	大阪市立大学大学院医学研究科・准教授	神経細胞遊走障害を伴う先天性神経疾患に共通する細胞内物質輸送機構の解明
吉田松生	自然科学研究機構基礎生物学研究所生殖細胞研究部門・教授	精子形成の高温障害のメカニズムの解明

[資料-2]

平成26年度海外共同研究支援助成採択者

7件 (交付金：1件 50万円)

(50音順、敬称略)

氏名	共同研究者名 所属機関・職名	A：共同研究テーマ B：共同研究開始時期 C：期間
親泊 政一 徳島大学疾患プロテオ ゲノム研究センター生 体機能分野・教授	David Ron Professor Institute of Metabolic Science, University of Cambridge 英国	A：肝特異的にPERK経路を活性化するマウスを用 いた代謝調節機構の解明 B：2012年(平成24年)7月から開始 C：平成26年10月4日～10月22日まで
河合 慶親 名古屋大学大学院生命 農学研究科・准教授	Toren Finkel Senior Investigator National Institutes of Health (NIH) 米国	A：オートファジーを誘導する低分子薬剤の分子機構研 究：特にオートファジー関連遺伝子産物の機能解析 B：2011(平成23年)年1月から開始 C：平成26年9月8日～年9月20日まで
河野 隆志 国立がん研究センター 研究所ゲノム生物学研 究分野・分野長	横田 淳 Senior Group Leader Institute of Predictive and Personalized Medicine of Cancer, Barcelona スペイン	A：肺小細胞がんの治療標的となる分子の同定と治 療法の開発 B：2013(平成25)年5月から開始 C：平成26年12月20日～平成27年1月20日まで
南保 明日香 北海道大学大学院医学 研究科細胞生理学分 野・准教授	ill Sugden Professor ウィスコンシン大学マディソン校 米国	A：Epstein-Barrウイルス感染細胞が放出する細胞外小 胞エクソソームが内包する生理活性因子の機能解析 B：2012(平成24)年10月から開始 C：平成26年8月1日～8月7日まで
長谷川 光一 京都大学物質-細胞統 合システム拠点・特定 拠点講師	Martin F Pera Professor The University of Melbourne オーストラリア	A：膵臓癌の診断と標的医療に向けた新規バイオ マーカーの探索 B：2011(平成23)年2月から開始 C：平成27年1月28日～2月11日
濱田-川口 典子 東北大学大学院生命科 学研究科脳機能遺伝分 野・研究支援者	C. I. Edvard Smith Professor カロリンスカ医科大学 クリニカル リサーチセンター スウェーデン	A：Btk29A非受容体型チロシンキナーゼによる卵 巣腫瘍抑制機構の解明 B：2011(平成23)年4月から開始 C：平成25年3月1日～4月10日
山崎 晶 九州大学生体防御医学 研究所分子免疫学分 野・教授	Bernard Malissen Professor Centre d'immunologie de Marseille Luminy フランス	A：T細胞分化・活性化を司る新たな分子メカニ ズムの解明 B：2011(平成23)年11月から開始 C：平成25年11月3日～11月9日

[資料-3]

平成26年度研究会・シンポジウム開催助成採択者

2件 (交付金：1件 50万円)

(50音順、敬称略)

氏名	会議名、場所、開催日、参加人数
伊藤 壽一 京都大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授	・国際内耳ワークショップ2014京都 ・国立京都国際会館 ・平成26年11月1日～11月4日(4日間) 国内 225名、国外 225名、合計 450名
吉田 久美 名古屋大学大学院情報科学研 究科複雑系科学専攻生命情報 論講座教授	・第27回国際ポリフェノール会議2014名古屋、合同開催第8回タンニン会議 ・名古屋大学豊田講堂・シンポジオン・野依記念学術交流館 ・平成26年9月2日～9月6日(5日間) 国内 230名、国外 220名、合計 450名

平成25年度海外留学奨学研究助成採択者

3件（交付金：1件 300万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
関根 悠介 *1	東京大学大学院薬学系研究科・助教 University of Cambridge 英国	小胞体ストレスセンサーIRE1の新たな 活性制御作用点の解明
錦井 秀和 *2	筑波大学医学医療系血液内科・講師 Stanford University 米国	造血幹細胞移植後の骨髄内GVHDが及ぼ す骨髄ニッチの影響に関する研究
日吉 大貴	大阪大学微生物病研究所・特別研究員 Max Planck Institute for Heart and Lung Research ドイツ	サルモネラ、宿主とその腸内細菌叢
福田 隆一	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 University of California San Francisco 米国	ASB family分子による心臓発生・心機能 への影響解析

*1：平成26年3月末にて別途奨学金取得のため、奨学金交付中止。

*2：平成26年11月末にて給与取得のため、奨学金交付中止。

平成26年度海外留学奨学研究助成採択者

5件（交付金：1件 300万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
東 正大 *3	北海道大学大学院医学研究科免疫学分野 モントリオール大学 カナダ	反復プロテオミクスによるオートファ ジーを介した抗原提示基盤の解明
河野 浩之	国保水俣市立総合医療センター神経内科・部長 Priority Research Centre for Translational Neuroscience and Mental Health, The University of Newcastle オーストラリア	超急性期脳梗塞に対する血管再開通療法 の適応拡大のための研究
菅原 亨	国立成育医療研究センター研究所 University of Southern California 米国	ALSの発症のメカニズムの解明、および マイクロRNAの機能解析
二村 圭祐	大阪大学大学院医学系研究科遺伝子治療学・助教 国立衛生研究所 米国	クロマチン制御異常による先天性心疾患 発症メカニズムの解明
日野原 邦彦	東京大学医科学研究所分子療法分野 Harvard Medical School Dana-Farber Cancer Institute 米国	乳がん幹細胞制御に関わるエピゲノム解 析

*3：平成27年1月末にて給与取得のため、奨学金交付中止。

平成27年度海外留学奨学研究助成採択者

5件 (交付金：1件 300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
太田 翔	京都大学iPS細胞研究所・特定研究員 University of California, Los Angeles 米国	多能性幹細胞の分化に伴う細胞種特異的NF- κ Bシグナル伝達システム構築原理の解明
笠松 純	北海道大学大学院医学研究科免疫学分野・特任助教 ワシントン大学(セントルイス) 米国	自然リンパ球と適応免疫系の機能連帯に関する研究
平山 雅敏	慶應義塾大学医学部眼科学教室・特任助教 Salk Institute for Biological Studies 米国	誘導メラノプシン発現網膜神経節細胞による視機能再生
南 俊行	大阪大学大学院医学系研究科呼吸器・免疫アレルギー内科学・特任助教 カリフォルニア大学サンディエゴ校 Moores Cancer Center 米国	肺癌とその微小環境との相互作用を標的とした新規分子標的治療薬の開発
宮林 弘至	東京大学医学部附属病院消化器内科・特任臨床医 ハーバード医科大学 米国	KRAS遺伝子を標的とした肺癌の治療可能性の検討